

# Economic Indicators

発表日: 2020年8月11日(火)

## 2020年4-6月期GDP予測(最終版)

～前期比年率▲27.8%と予想～

第一生命経済研究所 調査研究本部

経済調査部長・主席エコノミスト 新家 義貴 (Tel: 03-5221-4528)

8月17日に公表される2020年4-6月期の実質GDP成長率を前期比年率▲27.8% (前期比▲7.8%) と予測する。7月31日の段階では前期比年率▲27.6% (前期比▲7.8%) と予想していたが、その後公表された経済指標の結果を反映し、予測値を若干下方修正する。

8月7日に公表された6月分の家計調査と家計消費状況調査では、緊急事態宣言解除後の消費が予想以上の改善を見せていることが示された。この結果を反映し、個人消費の予測値を前期比▲6.9% (従来予測値: 同▲7.0%) へと小幅上方修正する。一方、設備投資の予測値は前期比▲4.2% (従来予測値: 同▲3.5%) へ下方修正を行った。これは、8月6日に内閣府が公表した研究開発の産出額の推計値が、筆者の想定を大きく下回ったことによるものである。また、本日公表された6月分の国際収支統計の結果を反映したことで、実質輸出の予測値を前期比▲19.0% (従来予測値: 同▲19.3%)、実質輸入の予測値を前期比+0.2% (従来予測値: 同▲0.1%) へ、それぞれ小幅上方修正した。輸出入とも上方修正であり、外需寄与度については変更がない。これらを踏まえ、4-6月期の実質GDP成長率を前期比年率▲27.8%と予測する。

(需要項目ごとの予測値の解説は、「2020年4-6月期GDP (1次速報) 予測」(7月31日発行)をご参照ください)

4-6月期GDPのコンセンサスは前期比年率▲27.1%と、筆者の予測値と大きくは異なる。波乱があるとすれば政府消費と在庫あたりだろうが、いずれにしても4-6月期のGDPが記録的な落ち込みとなることは間違いない情勢である。緊急事態宣言下の日本経済の落ち込みがいかに大きかったかが改めて示されることになるだろう。

### 2020年4-6月期GDP予測

	(%)
実質GDP	▲ 7.8
(前期比年率)	▲ 27.8
内需寄与度	▲ 4.7
(うち民需)	▲ 4.7
(うち公需)	0.0
外需寄与度	▲ 3.2
民間最終消費支出	▲ 6.9
民間住宅	▲ 2.2
民間企業設備	▲ 4.2
民間在庫変動(寄与度)	▲ 0.1
政府最終消費支出	0.0
公的固定資本形成	0.2
財貨・サービスの輸出	▲ 19.0
財貨・サービスの輸入	0.2

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

